

「やっぱり落ち着くわ♡涼平といえど…
んても…ちよこ変わった？」
「大学生になれば少しはね…^{カナン}夏南は…制服の
せいかもしれないけど変わらないな」
「マジっ…これでも大学で今までにないことに挑戦してるの
アンタが高校で回すっばく言ってたっしょ」
「…あれは夏南が授業サボったりしてたから…」

「可能性の為の挑戦
そして勉強…っしょ？
まあ、お力けて涼平と
付き合っただけになった
大学行けたし…ちがっただけ」

「ん？」
「折角、涼平が
だくいききなJKのコスプレ
してきてあげたんだし…
寂しい思いさせた分の埋め合わせ…
シテもらおうかな、んふふっ♡」
「うっ…♡か…夏南」

「ゴメン…俺も一緒のとこ行きたかったけど…」
「いいよ、涼平は目標あるんだし…休みには
っしょって会ってるんだから…でも、そうだな」

ちよこ

「……ふふ♡」

「やっぱ涼平…だよね…
マジで好きだよ…涼平♡」

「夏南……」

「俺も…愛してる♡」

「…うん…♡」

「あっっ♡
よかった…♡」

いつもは強気なギャルの
夏南が見せる
可愛い笑みに
いつもドキリと
させられる…だけど—

「大げさだなあ…大ひた
悩みじゃないから
…でもちょっ嬉しいよ…
涼平♡」

その時みせた笑顔は
今までと
何か違っていた—

「夏南…もしかして何か
悩みがあるんじゃない？」
「えっ…わかつちやろ？」
「…頼りにならないかも
しれないけど
何でも話してほしい…
これからも
君の力になりたいんだ」

——その日から夏南とは連絡がつかなくなつた……
夏南の大学に行つても、ほとんど会うことが出来ず
大学の人間に聞いても余り学校に来ていないから
わからない……と……

ただ、夏南が所属していたサークルが
『アニメ研究部』で、そこで姫のような扱いを
受けて彼女もまんざらではなかった……という話だ

正直、信じられない

高校時代はオタク文化に興味を示さなかったし
クラスのオタク達にも、あたりが強かった

俺の注意を聞いてくれるようになったところから
色んな趣味を持つ人がいると理解しようとして
オタク達にも優しくはなつていたが……

そして連絡がつかなくなつて3ヶ月……
彼女の以前のギャル友から連絡がきて
『SNSの裏垢でコスプレしてエロ同人イベントに出てる』
という更に信じられない情報を聞き
調べてみると……彼女がイベントで出したであろう
DVDが既に2作品……しかも際どい……というか
俺にしかみせてなかったと思つていた
体を惜しげもなく晒した画像が数多くあつた……

頭が混乱する中、俺は彼女の最新作が
データ配信されているのを確認すると、すぐに購入した
一縷の望みをかけ、映像を確認すると——

「……今…カナ姫と
初コスホリでDVD完売記念の
打ち上げ会場に向かっていまーす
ボクの言った通り
スゴイ反響だったしょ！完売おめ」
「た…たしかにアタシの言の通りね
ん♡♡♡…さっきからずいぶん♡♡♡」
「乳首いっぺんだけ♡♡♡」

ちゅ♡♡♡
ちゅ♡♡♡

!?

は♡♡♡

は♡♡♡

「くっ♡それより完売したら
何でも言う事聞いてくれるって
話だったんですけど…
ボクの彼女になってほしいな」

「言っただけと…ん♡
あの数、完売するなんて
思ってたかったし…は♡♡♡
アタシには彼氏が…」
「でもボクのあげたチョーカー
彼氏と会ってる時もつけてたんでしょ？
それに彼女になってくれれば
またプロデュースしてあげるよ…
カナ姫も興奮したでしょ
エロコスイベでスケベな目で見られるの」
「ちゅ♡…アソコ…マンコ弄らないでよ♡
今…触られたら…」
「スライベで
めっちゃエロい気分にな
ってるからあ…ひゅ♡♡
すく…イク♡…いっぺんばあ♡♡♡」

——映像を見ても
信じられない……

ん♡♡♡
ん♡♡♡
ん♡♡♡

「……どうも……エロコスレィヤーの
かな……す、イベの打ち上げ終わって
これからオタサルのメンバー達と
2枚目のDVD撮影……しま……すっんっ
……ってカガツきすぎ……」
「カナ姫えっ……うっ♡」

あ……さび
や……っ♡

う……ん♡
う……ん♡

「んてもエロコスメの楽しさ
教えてくれたし体の相性は
いいのよねえ……んぶん♡んぶん
ペロチューやばっ……んぶん♡」

「ボクはカナ姫の全部が好きですよ
腋毛マン毛ボーボーな
オゲレツなところも愛してます、んぼっ♡」
「あ……愛してるさか♡」
それに無駄毛はアンタが……あぶっん♡」

きゅん……♡

——話しながら体を好きにされている……
エツチが好きなのは夏南だったけど
こんな男達に性のオモチャの様に
扱われるなんて……絶対に
許さない人だったのに……

「はあはあ♡たまに抜いてあげてるだけで
こんなに夢中になって……p（プロデューサー）とか
ちよっ♡一緒に住んで毎日
「スハメしてたらアタシを彼女にするさか
言い出さしい……ん♡」
オタクって、ちよっ♡いよねえ……ひっ♡」

「あ、そんなこと言いながらアタシの体…ドスケベな玩具くらいにしか思っていないの知ってんのよ。あ、あ、クリ電マあ…くさっ」

「でも、こうやってオタク達に
工口い目で見られるの……
大好きですよ♥カナ姫は」

「んふふん せいからい
だから…エロDVDを売ってオナペットに
ゆてくれたPには感謝してるから
アツタが大好きなオゲレツベロチュ
ャってあげる、れるれるあり んふ」
「おおっ！…はぐう♡んぶうう♡」

(A large speech bubble containing stylized Japanese text, likely representing a character's name or a specific phrase.)



「手はのびたアタ達にも…
媚び媚びフエッあじあけるっ…ふふ」

「うふふふふ…
はっ あっ」

「あああ♥」

「カナ姫え！」

「おおお♥そんな
下品なバキューム
フエラされたらっ
…ひうっ!!♥」



「んぶっ♥んぶぶっ♥カナに
もっさーメンちょーだい♥」
「おお!♥カナ姫の
ネコナデ声は
破壊力が…ぐおー」
「あん♥キモチいっ…
…おーアタシも
マン!♥…くるっ♥
あめっ♥んめっ!
ヤベっ…またイグっ!!♥」
「ソフフ♥撮影の為に
練習したのに
いつもの下品オホ声に
なってますよ…
うぐっ!♥」

こんな声を出す夏南を
自分は知らない…しかも
こんな長い時間セックスを
続けるなんて…
もう2時間近くも—

「おおー！生やハッ！♡Pのチンポの
感触が伝わって…おお♡んおお♡ひくっ！
おお♡種付けプレスやべっ♡いくっ♡あぁー！
「うぐう♡生を許してくれたってことは
恋人ってことでいいですよねぇ！カナ姫え！♡」

—他の男たちは精を出しつくしたのに
このPと呼ばれる男はまだ続ける気か…
しかも生で…夏南もそれを許して…
いや…これじゃまるで…

「いいっ♡恋人でいいからっ！
もっと子宮にPのチンポたたきつけてっ！！
おお♡無責任射精で…まだっ…んあっ♡」

だっ♡なる♡
なる♡なる♡

おんセックス♡
マジでスキ♡

——もし、あれが本当の夏南なら……
俺は彼女を引き戻せるんだろうか……

前住んでいたマンションも引き払われ
連絡も全く取れず大学にも顔を出さなくなっていた

そして半年……彼女はエロコスプレイヤーとして
SNSでは相当有名になっただけ……
彼女のギャル友だった子達も
引き戻すのは諦めてしまった……

自分も……もう……
だから半年、見ていなかった彼女のオフパコ映像を
見てみることにした……
正直、前回は吐き気を催したが
まだ映像に彼女を引き戻せるヒントが
あるかもしれない……と……

……だが映したモニタには、もう戻すことが出来ない
とわかる画面が流れてた——

「んっ……余裕ねっ……」

「んふふ♡やっと来たわね…ホラホラ

便姫力ナのチン媚びマンズりをくらえっ!!

「おっ♡アハハ
さすがウチの便姫っ
マンズリも
うまつ…うつ♡
ユルマンより
こっちの方が
いいかも」

「うほっ! あぐっ... あっ... ゴメンっ! でちゃうっ... ぐう♡」
「張り切ってますねカナ♡」

「そりゃさうよ、チンポツイスターゲームに負けたら

『お別れ』映像撮られる上に今撮影してるDVDの売り上げを全部アンタ達にもっていかれるとか！完全にATM兼オナホじゃない！」

「なんてすってえ！
あらっ!!♡くらえっ!!♡
カナのデカ尻ピストン…んあっ!!♡」

「ボク達3人を射精させれば
勝ちですから頑張って♪
勝てば3日おあずけだった
チンポ……このあと
ハメあげますから♡」
「えっへっ……♡
やったっ♡……さあ…早く
アツタも射精しなさいよ
……ぐんぐんっ♡
3日ぶりの大好きなPの
チンポあ……はやくはやく♡」

「勿論だよ♥それじゃあ撮影始めようか……」

「……ほっ♡ほっ♡見てるぅっ♡○○♡
もっ、知ってるかもひれないけど…
アタシ、草汰pと…恋人になっこんの
んほっ♡ほっ♡…正直
こんな撮影したくないんだけど…
草汰の命令でさあ…ごめ〜ん♡
アタシがとれだけ草汰に
ソッコンなのカ
アピールンンン」

オタコ
独占欲強〜わっ…
困るよね…
こんな風に
マン「こハート型
作っヒロタンス
のさかせ…ほっ♡」

「こも…草汰のこと…マジで好きになっちゃった♡
だから草汰の頼みなら腋毛もマンモ…
ケツ毛だって伸ばすし…チン媚びダンスしながら
お別れ撮影しちゃうい…」

「頭にパンツカぶせて
フタマネだっひめるわらっ…
…んっ♡ぶっ♡あ♡♡
それくらいマジで愛してるから
…本当に「メン〇〇…ぶっ♡」



「うほぁ…♥ぁぁ♥やっぱこのチンポっ♡たまんねっ…んあっ♥」
「しかし酷いですな…Pのチンポ欲しさに元カレにこんな事まで…」
「ここまで堕ちると…ちょっとね…Pはいいんですか？この便姫で」
「んうゝ、んっ♥ボクのデカチンではこのユルマンが
丁度いいんだけどね♥…まあ…たまには他の子も…」

「いぐいちゃぁ…待つてみーめっちゃサービスするからぁ…♥」
「他の子じゃ絶対」いましていないで全部していいからさぁ」

ちよーだっ♡

あはっ♡
チンポチンポ

「捨てないでえ…れるれるれるぁ♥」
「うおっ！♥……くふ♥…でるっ！♥」
「姫はこう言うど必死になるから
カワイイですな♥
やっぱリカチ姫は
最高のオナホですな…ぐっ♥」
「んへへえゝ♥うれっ♡」
「もっ♡寝めてえゝ♥べるべるぁん♥」

「はっ♡はっ♡……♡♡……」
「アタシって…どうやら自分が嫌ってた
承認欲求と性欲の塊みたいなの
にM便姫のクソ女だったみたい…
だからさ、こんなヘンタイ女わすれて
新しい彼女…見つけて…よ…」

——わかってた——

妊娠2ヶ月
オゲレツレイヤー姫のガチンコファック





























おっぱい大好きな
おっぱい大好きな
おっぱい大好きな

SEX
おっぱい





■双葉夏南(●8)

B:110

W:67

H:106

B大学1年生、双葉夏南(ふたばかなん)

彼氏の清長涼平(きよながりょうへい)とは

●校時代一緒のクラスだった。

教師も半ば見捨てていた問題児ギャルだった夏南を

風紀委員だった涼平は説教したり面倒を見ていた。

はじめはウザがっていた夏南だが涼平の誠実さと真っすぐさに惹かれ●校2年生の時に付き合うことに。

同じ大学を目指し二人とも勉強するが

最底辺だった夏南では、優秀だった涼平と同大学には行けず。

だが、それでも問題児だった時では考えられない学力になる。

エッチが好きだった夏南は涼平を度々誘っていた。

涼平は鉄の意志で断っていたが

あの容姿と体に健全な男子がかなうはずもなく

半年と経たずに体を重ねてしまう。

真面目な涼平は責任を取るつもりでいるが……

大学に入り、その容姿から多くのサークルから勧誘されるが

問題児時代バカにしていたオタク達のサークルに入ることになる。

熱心に勧誘されたせいもあるが●校時代、涼平に

「人を趣味とかでバカにしちゃいけない」と言われた事を

思い出し、体験という形で入ったが……

■双葉 夏南(●9)■

B:119

W:69

H:109

B大学に入って半年、彼女はサークルに正式加入。オタク達に「姫」と持ち上げられながらオタ活動に勤しんでいた。サークルで一番の古株である緒田草汰(おだそうた)。いやらしい目で見えてくる草汰を気味悪がっていたがアニメやコスプレを熱心に布教されコスプレイヤーに…更にコスプレ画像をSNSでアップされバズる。

そのまき草汰達に乘せられドンドン過激なコスに…オタク達から営められまくりエロい目で見られることが興奮と快感になってからはエッチ好きだった夏南は草汰に体を許してしまふ。草汰は童貞だったガ体の相性は抜群。余りのキモチ良さに何度も浮気をしてしまつた上に草汰がらもらったチョーカーを常に身につけるように…

…涼平とは5月のデートを最後に連絡を絶つ…

そのまきサークルでエロコス活動が続ける。サークルの男達ともシテいるガ生を許していたのは草汰だけ。エロコスイベントで草汰のプロデュースでスケベDVDを売ると一瞬で完売、それからというもの承認欲求と変態性欲を満たしてくれる草汰に依存してしまいオゲレツプレイをしまくる下品エロコスレイヤーとして、どんどん堕ちていくが…

草汰と一緒に暮らし、毎日の様に変態セックスをしても自分に付き合ってくれる上、サークルのオタク達の玩具にされることも了承している草汰からますます離れられていき今ではサークルメンバーに『便姫』の相性で呼ばれるほどの変態女に。

